

「自立」についての断章集

前書き

この本は あなたが「自分自身」を取り戻し
より自分らしく生きるために

あなたの背骨に

一筋の息を吹き込むことを目的に作られました

あなたが「自分の足」で立つ勇気を持ち

「自分自身の表現」をすることを

私は手助けしたいです

あなたの気骨と独立心が

あなたの背骨に宿ることを祈っています

目次

心の震え

「生産性」と「創造性」

恐怖

身体に聞くこと

本当の表現

表現の塩

「生」と「死」

生の神秘

宿命

坐禅

自然じねん

寄りかからないこと

「システム」と「獣」

生きるということ

磁力

天に任せる

心の震え

再生数1億回の動画が

再生数10回の動画の

千万倍の価値があるわけではない

だが

誰もが数字を追いかけては

いつも一喜一憂している

心には数字はわからない

心にわかるのは「震え」だけだ

だから

心の望むことをすればいい

そうすれば

あなたの観客がたった一人でも

「心の震え」を渡せるだろう

反対に

もしも「目の前の一人」を置き去りにして

千人万人の観客を求め続けるならば

誰もあなたの前で足を止めることはないだろう

なぜなら

あなたのそうした「内なる渇き」が

観る人の心にまで「渇き」を覚えさせるからだ

「目の前の一人」と向き合うことから
全てが始まる

しかしそれは

「その人を足掛かりとして利用せよ」
という話ではない

ただ

もしもあなたがその

「たった一人」と向き合うならば

あなたの心は「浄化」される

そうして あなたの「渴き」は消えていき

あなたの心は震え始める

そして

その「震え」だけが相手の心を満たすのだ

そのとき きつとあなたは

人数にこだわることをやめるだろう

なぜなら 本当に必要なものは

数字で表すことができないからだ

「心の震え」を渡したことのある人は

そのことを深く知っているものだ

「生産性」と「創造性」

「生産性」と「創造性」は全く違う

「生産性」は外側から強制されるものであり

そこから生まれるものには「血」が通っていない

だが「創造性」は

個人の内側から生じるものであり

そこにはその人の「指紋」がついているものだ

「創造性」は 「生産性」を捨てた時に花開く

なぜなら「創造性」は

「あえて何も生産しない」という

自由を含む精神にしか宿らないからだ

だが 社会は「生産しない人間」を許容しない

それゆえ

誰もが「生産性」の奴隷となる

社会からはみ出さないように

「しなくてもいいこと」をし続ける

「本当にすべきこと」は

「しないこと」の中に留まれる人間にだけ

開示される

だから

別に急ぐ必要などない

そもそも急いでどこに行く？

あなたは

まだどこに行きたいかもわかっていないのに

「しないこと」の中に

留まる勇気を持つ人だけが

心之声を聴くことができる

「生産性」の牢屋から抜け出せるのは

「動かない勇気」を持つ人だけだ

「動かないこと」を選べない人は

「生産性」によってゆっくり磨り潰されるだろう

そうして

自分の心があげる悲鳴が

聞こえなくなってしまうのだ

「生産性」を

ゴミ箱へ思いきり放り込んだとき

その人の中で「創造性」が花開き始める

その人の表現は

日々 「生産性」 によって

磨り潰されている人たちの心に

潤いのある 「新鮮な水」 を分け与えるだろう

「創造的な人間」は人の感覚を開き

相手に「自分の呼吸」を思い出させる

かつて「生産性」という名のもとに

その人が差し出してしまった

「自分の呼吸」を

恐怖

恐怖に駆られて

彼は動く

彼はジツとしていられない

なぜなら

もしも暴れ出さないでいたならば
恐怖に追いつかれてしまうからだ

彼は走る

恐怖をなんとか振り切ろうとして
そこから少しでも離れようとして

だが

そうやって走り続けることによって

恐怖はさらに大きくなる

あたかも闇に蠢うごめく「化け物」が

人の想像によって太っていくように

だが

その「化け物」はその人自身の心の影だ

そして

影は光の中では存在できない

それゆえ もし彼が

「意識」という光を内側に持ち込むならば

恐怖という「化け物」は消え去っていく

その時

彼は気づくだろう

恐怖を太らせ 育てていたのは

自分自身であったのだと